

『東京での朗読付き七重奏コンサートの開催と 静岡県伊東市でのリサイタル』

≪概要≫

2つのコンサートの企画・開催。東京公演はオンデマンド配信も実施。

(1)「フルート三重奏とサクソフォン四重奏と朗読によるコンサート」

私が所属しているフルート三重奏団体「フルートアンサンブル・トリプティーク」のリサイタルに、サクソフォン四重奏団「セレンディピティー・サクソフォン・カルテット」をゲストとして迎え、フルートとサクソフォンの七重奏に朗読を加えたコンサートを東京で開催。(2021年12月27日)

(2)「樋口貴子フルートリサイタル」

私の故郷である静岡県伊東市にてリサイタルを開催。(2022年2月26日)

ピアニストは松井洋子氏。「フルートで奏でる歌の世界」を副題とし、有名歌曲やオペラアリアを軸として、声楽作品に基づくフルートのオリジナル作品も組み合わせたプログラムを予定している。

≪目的・達成したい成果≫

(1)フルートアンサンブル・トリプティークでは、レパートリー開拓のために作品の委嘱を積極的に実施。中でも、ムソルグスキー「禿山の一夜」(2007年委嘱初演)と朗読を加えたフェアヤ「恋は魔術師」(2008年委嘱初演)は、フルート三重奏とサクソフォン四重奏のための編曲作品として、世界的にも珍しい編成でありながら響きの完成度が極めて充実し、優れた成果を発揮したと認識している。編成が特殊であるため再演の機会をなかなか設けることができなかったが、コロナの影響で吹奏楽よりも人数を絞った管楽アンサンブルへと興味移行しているこの機会に、改めて本編曲の存在を紹介したい。学生アンサンブルコンテストで取り上げてもアピール力の高い作品であり、技術力の高い中高生が多い東京での開催、さらにオンデマンド配信することが作品の存在を広める機会となり、他団体にも取り上げられるようになることを期待している。

(2)私の故郷である静岡県伊東市は、首都圏や県内の浜松市・静岡市に比較して、従来から音楽活動やコンサートが活発とは言い難い状況にある。身近に音楽の生演奏に親しむ環境を根付かせたいと願い、音楽大学在学中から20年以上にわたって大小様々な演奏会を行ってきた。子供から大人まで世代別のアマチュア・フルートアンサンブルも立ち上げて指導にも携わってきたが、コロナ禍以降、そうした活動が急速に萎んでしまった。首都圏以上に活動休止やコンサートの取りやめが目立つので、伊東の人々に改めてフルートを通じて音楽の魅力や楽しさを感じられる機会を作りたいと考えている。

《スケジュール》

(1) 「フルート三重奏とサクソフォン四重奏と朗読によるコンサート」

公演日: 2021年12月27日(月) ルーテル市ヶ谷ホール

2021年10月チラシ作成済み

2021年12月4回リハーサル ※演奏会前にPCR検査を実施

(2) 「樋口貴子フルートリサイタル」

公演日: 2022年2月26日(土) 生涯学習センターひぐらし会館ホール

2021年11月チラシ作成済み

2022年2月3回リハーサル ※演奏会前にPCR検査を実施

《プロフィール》

ひぐち たかこ
樋口 貴子(フルート)

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科を首席で卒業、桐朋学園大学音楽学部研究科修了。2003年から2008年まで静岡県立沼津西高等学校芸術科フルート非常勤講師を務める。その後渡独し、ドイツ国立マインツ音楽大学修士課程を最優秀の成績で修了。在学中、ドイツ国立トリアー歌劇場、マインツ歌劇場にて期間契約団員を務め、ドイツ国内公演や国営放送収録等に参加。これまでにフルートを仲戸川智隆、白尾隆、白尾彰、Dejan Gavric、ピッコロをEleonore Ciupka、Eva Abelsの各氏に師事。第8回大垣音楽祭新人オーディション合格、大垣音楽祭出演。日本フルートコンヴェンション2007TOKYOアンサンブル部門第1位(金賞)受賞。第15回びわ湖国際フルートコンクール入選、ならびにオーディエンス賞を受賞、日本フルートコンヴェンション2015ふじのくに静岡コンクールピッコロ部門入選。現在、オーケストラ、室内楽などの演奏活動ほか、フルートアンサンブル指導や音楽教室等での個人指導も積極的に行っている。